



### 中国がわかるシリーズ 33 澶淵システム（下）

ライフネット生命保険株式会社  
代表取締役会長兼 CEO、出口 治明氏

タングートでは、1038年、李元昊が、大夏（中国では西夏と呼びました）を建国しましたが、1044年、宋との間に和議が成立しました（慶暦の和約。宋を兄として、宋が、銀絹を贈ると同じシステムです）。しかし、その後も小競り合いが続き、宋は、西部国境に大軍を貼り付けざるを得ませんでした（大夏の軍事力を支えた鉄器の精巧さは、有名でした）。

なお、この時、前線で活躍した范仲淹（先憂後楽の「岳陽樓記」で有名）は、中央に戻り、欧陽脩らと、理想主義的な政治改革運動を領導します（慶暦の改革）。この改革は、企画倒れに終わりましたが、士大夫の心意気を伝えるものとして、長く語り継がれることになりました（宋の仏教は、禪と浄土信仰によって盛行していましたが、儒教の復権を願う欧陽脩は、韓愈に倣って、孟子を高く評価しました。宋になって、儒教は、周孔の教えから、孔孟の道へと舵をきることになりました）。

キタイと大夏の侵入に対して、文民優位の宋は、いわば、平和を金銭で買った形になりましたが、宋の巨大なGDPからすれば、数%に過ぎない平和の代償（経済無償援助）は、実に賢明な政策でした。そもそも中国の伝統的な朝貢貿易システム自体が、平和を金銭で買う経済大国（宗主国）の政策に他ならなかったのです（もっとも、中国は、軍事大国でもありましたが）。

キタイや大夏は、これまでの北方遊牧民とは気風が少し異なっていました。鮮卑などの先行遊牧民とは違って、民族の伝統を守ろうとする勢力が常に政権の主流を占め続けたのです。両国とも、まず、独自の文字を創りました。キタイは、割譲を受けた燕雲16州を統治する南面官を設け、遊牧民を担当する北面官と区分しました。2元統治により、遊牧民の伝統を守ろうとしたのです。もちろん、北面官が上位ではありましたが、しかし、毎年、宋から送られる巨額の財貨は、尚武の気風を少しずつ蝕んでいったのです。